

# ポンプエアシェルターを発売

地下タンク用高精度液面計や漏えい検知装置など、計測制御機器・計測管理システムを製造・販売している「昭和機器工業株式会社（福岡市博多区博多駅前4-33-32、前芝信介社長）」は、非常用発電設備に燃料油を移送する油ポンプを洪水や津波による水没から守る『ポンプエアシェルター』を製品化し、このほど、販売を開始した。

官公庁施設、病院施設、ホテル、消防施設、警察施設、ポンプ場・排水機場など、液体燃料仕様の非常用発電設備を設置している施設に対して売り込みを図っていく。

問い合わせは昭和機器工業東京営業本部 ☎03-3716-5777。

強固な防水構造を備えた新製品「ポンプエアシェルター」では、地表面に近い高さに設置される油ポンプを覆うことにより、洪水や津波による冠水時においても、ポンプ・モーター部の水没防止を図ることができる。それにより、非常用発電設備の機能保全を図ることができるとしている。

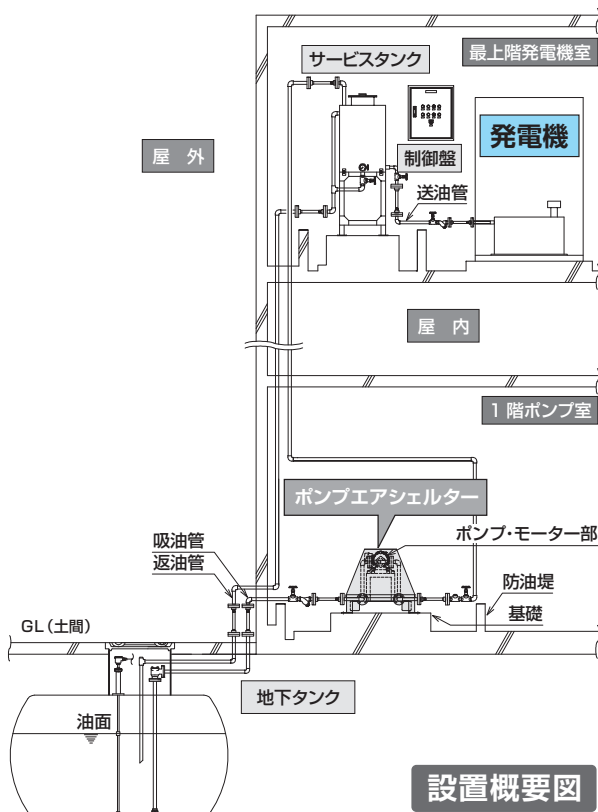
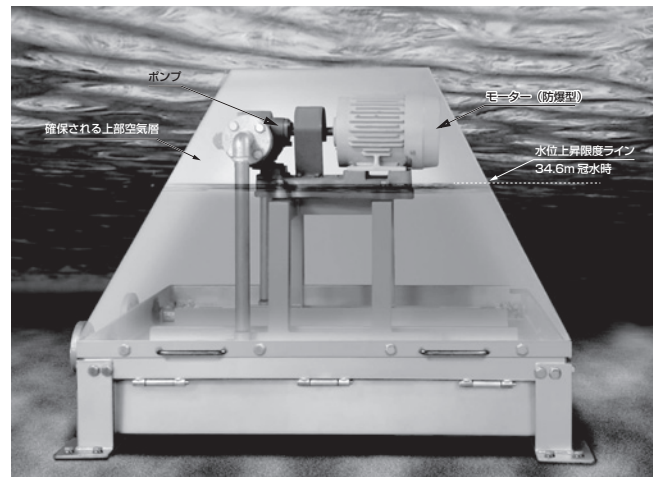
コップの飲み口を下側にした状態で水中に沈めていくと、内部の空気が逃げ切れずに容器の上部に空気層ができる。新製品はこの現象を応用して開発された。同空気層にポンプ・モーター部を配置することにより、水没を防止する画期的な製品で、新設・既設のいずれ

にも対応できるようになっている。

昭和機器工業の説明によると、非常用発電設備は、洪水や津波対策として、建物の高層階に設置されることが多い。一方、同設備の燃料油は屋外の地下タンク内に貯蔵されており、同燃料油を発電設備へ移送する油ポンプは吸上能力を確保するため、地表面に近い高さに設置されることが多い。平成23年（2011年）3月に発生した東日本大震災では油ポンプのモーター部が津波により冠水（水没）して故障し、非常用発電設備が長時間稼働できなかった事例が多くみられたという。

製品化に際して、「独立行政法人海上技術安全研究所の深海水槽設備を用いて最深部（水深34.6m）まで同シェルターを水没させた結果、ポンプ・モーター部は空気層によって空間が保たれていた。

本製品は既に県庁や市役所などから注文を受けるなど、全国各地の自治体から問い合わせが殺到している。



設置概要図

